



# 旅する公務員

第9弾

埼玉県 横瀬町

政策課 鈴木裕明

# 「旅する公務員」の目的

## ◆「A面」的目的

磐梯町役場の情報システムクラウド化により  
テレワーク環境が整ったことから  
磐梯町と交流のある自治体に職員を派遣し  
実際に旅をしながらテレワークをすることで生じる問題を顕在化させ  
ひとつひとつ障壁を解消していく。



## ◆「B面」的目的

自治体間の交流を推進し  
互いの先進事例を共有することにより  
地域課題の解決を図る。



## ◆「ボーナストラック」的目的

先方自治体の職員の方ばかりではなく  
関係者や団体の方々  
なにより住民の方々と  
昼夜分かたず楽しく交流し お友達になる。

# 「旅する公務員」 第9弾の概要

旅した期間 2023年7月24日（月）～2023年7月28日（金）

旅した職員 政策課政策係 主査 鈴木 裕明

旅した場所 埼玉県 横瀬町（まち経営課）

# 旅する公務員 1日目

7月24日（月）

7時50分 磐梯町駅発

※磐越西線でトラブルあり遅延、

JR磐越西線⇒東北東北線⇒JR川越線⇒西武鉄道を乗り継ぎ、1本遅れたが無事、

12時40分 横瀬駅到着

駅前食堂（キッチンえんがわ）で昼食。

13時 横瀬町役場到着

13時～ 大畑課長（まち経営課）に案内していただき、副町長、各課の皆さんへご挨拶した。

13時30～ 大畑課長、町田主任に町内の関連施設を案内していただいた。

あしがくぼ笑楽校⇒ 芦ヶ久保駅⇒ アスタバ⇒ 道の駅果樹公園あしがくぼ⇒ 寺坂棚田⇒ 花咲山公園  
⇒横瀬ジビエ製造場（有害鳥獣解体施設）



# 日本一、チャレンジする町「横瀬町」



横瀬町役場（全景）

|    |                                                   |
|----|---------------------------------------------------|
| 場所 | 埼玉県西部、秩父盆地の東端に位置<br>東京から70km圏内                    |
| 面積 | 49.49km <sup>2</sup> （うち40.35km <sup>2</sup> は森林） |
| 人口 | 7,776人（3,339世帯）<br>（参考：役場職員93人）                   |



まち経営課（旅先）

## ○将来ビジョンと目標

目指すべきビジョン：日本一住みよい町、日本一誇れる町

目標「カラフルタウン」：色彩豊かな美しい町。多様な幸せがある町。  
四季折々の美しい色彩豊かな景観があって、そこに温かい人の輪がたくさんある。  
その一人一人はいろいろな人がいて、みな自分らしく幸せに生きている。

# 芦ヶ久保エリア

## ○あしがくぼ笑楽校

平成20年廃校。山あいの自然豊かな小さな学校。学校の撮影などに適しております。木造と鉄筋コンクリートの校舎が並んでいます。映画やドラマの撮影など学校シーンのロケに最適です。管理は、一般社団法人 横瀬町観光協会。

## ○道の駅果樹公園あしがくぼ

有限会社果樹公園あしがくぼ（道の駅）出資：80%（町）、18%（あしがくぼ果樹組合）、1%（農協）、1%（観光協会）で平成16年設立。（埼玉県内初の**どぶろく**特区として認定された花咲山醸造所の**どぶろく**が販売されている。

## ○アスタバ

令和5年4月1日オープン。芦ヶ久保駅は、①二子山（882.8m、約4h）、②丸山（960.4m、約4h）、③日向山（633m、約2h）、④横瀬駅～武甲山（1304m）～二子山～芦ヶ久保駅（約8h～）コースなど、高低差、距離、歩きやすさなど自分の脚力・時間に合わせて選択でき、さらに芦ヶ久保駅を降りて、2次交通（バスなど）を必要とせずすぐに歩き始められる手軽さも、多くの登山・ハイキング客が訪れている一つの要因となっている。また、鉄道誘客のために芦ヶ久保地域の住民・観光協会、横瀬町が中心となって整備した「あしがくぼの氷柱」は、10年の歳月を掛けて、最大12万人（2019人）のお客様が訪れ、そのうち鉄道での来場者も2.7万人（2019人）の方が訪れるなど多くの方が芦ヶ久保駅を利用するようになった。

しかしながら、芦ヶ久保駅には待合所や集合スペースもなく、屋根のない、いくつかのベンチのみで、さらに一番寒い時期で寒い場所だからこそこできる「あしがくぼの氷柱」をご覧いただいたあとに風や外気を凌げる場所がなかったことから、鉄道利用者には十分な受け入れ態勢ができていなかった。

そのようななか、西武鉄道と広報紙の募集で集まった地元の住民、町関係者と協議を重ね、「鉄道利用者の利便性向上」と「日本一歩きたくなる町プロジェクト」の芦ヶ久保地域の登山・ハイキング客の更なる誘客、さらには「あしがくぼの氷柱」の来場者の「旧売店」を活用し、「**アスタバ**」を整備した。

※新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用





西武鉄道 芦ヶ久保駅



アスタバ 全景



アスタバ内



道の駅 果樹公園あしがくぼ



あしがくぼ笑楽校



どぶろく特区

# 横瀬エリア①

## ○花咲山公園

3.9ヘクタールの小高い山。この山を大切な憩いの場や、観光や交流人口の拡大を図ることを目的に、「みんなでつくる、人が集う花咲く美しい山」を目指し、横瀬町民で構成される花咲山公園整備検討部会の方たちと、ボランティアの方たちと整備を行っている。平成29年には、春から夏にかけて楽しめる花木、高木・低木あわせて約5,000本を、町職員とボランティアで植樹した。さらに、この公園がより魅力的な所になるよう、東京都小平市にある武蔵野美術大学建築学科と官学連携事業を行い、頂に（見晴台）（長椅子）を整備した。（地方創生加速化交付金：補助率10/10）

## ○寺坂棚田

寺坂棚田は、埼玉県内最大級の棚田と言われながら、農業従事者の高齢化や後継者不足などにより、大部分が耕作放棄地となって荒れ果てていました。その状況下、平成13年から地元農家が中心となって、地域資源である棚田を長期的に保存・活用しようと団体を組織し、都市住民の稲作体験や棚田オーナー制度等を始めとした様々な事業を行い、棚田の再生につとめている。現在は、全体面積約5.2haのうち約4haの水田（約250枚）が復活している。

## ○横瀬ジビエ製造場

横瀬町では、シカ、サル、イノシシの獣害があり、駆除した有害鳥獣を埋設処分していた。横瀬町官民連携プラットフォーム「よこらぼ」で応募され採択を受けた、株式会社カリラボ（民間）が経営している有害鳥獣解体施設である。カリラボは地元猟友会員と連携し「狩猟」という手段をさまざまなアプローチで体験できる機会を作り、それらを通して“生きる”ことに向き合える埼玉県横瀬町を拠点にしたコミュニティ・サービスを手がけるプロジェクト。本格的な狩猟サービスから、狩猟・解体体験イベントや、ジビエ肉の加工・販売、レストラン営業など様々なサービスを提供している。

芦ヶ久保駅前アスタバ内の自動販売機で、ジビエ加工肉を販売している。





寺坂棚田



花咲山公園



花咲山公園  
(官学連携：見晴台)



花咲山公園 2



横瀬ジビエ製造場

# 旅する公務員 2日目

7月25日（火）

8時10分 役場登庁

昨日に引き続き、大畑課長に町内を案内していただいた。

LAC横瀬⇒ AREA 8 9 8⇒ AREA 8 9 9⇒ ナゼラボ⇒ 横瀬小学校（令和5年2月完成）⇒  
チャレンジキッチンえんがわ⇒ 武甲山登山口

13時～

よこらぼ審査会（官民連携プラットフォーム「よこらぼ」）  
オンライン説明会に同席させていただいた。

15時～17時

まち経営課でテレワーク（町業務）



# 横瀬エリア②

## 関係人口創出プロジェクト：JA跡地を活用した中心地づくり

### ○Area 8 9 8

オープン アンド フレンドリースペースArea898（エリアはちきゅうはち）は、横瀬町民による横瀬に関わる人たちのためのコミュニティ・イベントスペース。使用されなくなっていたJA旧直売所跡地を有効活用し、町民と横瀬町に関わる人たちが交わる“交差点”として作られた。横瀬町は官民の連携の様々なプロジェクトに取り組み、新しい動きを積極的に行っている地域で、横瀬町外の多くの人や企業・団体が横瀬に関わっている。こうした人や団体・企業は、ある種のコミュニティとして繋がり、横瀬という軸で様々な出会いを生むようになってきた。

しかしながら、横瀬町にはこれらの人と人が交わる“リアルの場所”がなかったことが課題であったが、ある町民団体から横瀬町の官民連携プラットフォーム「よこらぼ」を通じて「新しいコミュニティ・イベントスペースを作りたい」という提案が上がり、Area898を作ることになった。現在は、横瀬町の地域おこし協力隊を中心に運営し、毎週木曜～月曜日をオープン日として様々な方々に無料で使っていただける場として、オープンしている。※利用方法によっては使用料をいただく場合もある。

### ○LAC横瀬

エリア898とフロアで繋がっている「LAC横瀬」がある。Living Anywhere Commons（リビング エニウェア コモンズ）の略。LACは、株式会社LIFULL（ライフル）が運営する（宿泊できる）コワーキングスペース（仕事したり交流したりする場所）の名称で、LAC横瀬含めて、現在全国36か所があるうちの一つ。来町者と、町・地域の人たちが交わることで、町民の課題解決につなげたり、新しい価値を創造したり、この周辺エリアが町の中心（ヘソ）として、新しい人の流れを生み出している。

### ○Area 8 9 9

「エリア899」はJAちちぶ旧横瀬支店2Fを改修し「横瀬町移住・定住・交流等推進拠点施設」として、特に未就学児と保護者が一緒にいられる場所を目指して作られた。同じフロアには、最新鋭の木工加工機「Shop Bot」を使って、様々なアイデアと地元産材を掛け合わせ、工芸品やアート作品などをつくりだせるスペースがある「TATE Lab.」がある。エリア899は、この木材を利用し改修されており温かみのある施設となっている。

※「Shop Bot」は日本で250台しかない内の1台。デジタル田園都市国家構想推進交付金（テレワーク）補助率：4分の3  
新型コロナウィルス感染症対策交付金 残金：4分の1



# 横瀬エリア③

## ○チャレンジキッチン「ENgaWA」

旧給食センター跡地をどのように活用するか？という問題があった。併せて、地域の「農」と「食」を再構築することをテーマに有限会社果樹公園あしがくぼ（道の駅）100%出資で会社設立。地域おこし協力隊が7名が委託型で所属し、自分たちで商品を生産、試作、販売し提供できる場として活動。

名前の由来は、日本家屋独特の空間、人と人とが、気軽に出会い、交流できる場所。“えんがわ（縁側）”を意味し、出会いの「縁」、応援の「援」、経済循環の「円」の三つの「EN」で、「環（WA）」を作るという思いを込め、横瀬駅の「ENgaWA駅前食堂」や町内の農家らと連携し、新しい特産品の開発・販売の拠点とし活動している。

新型コロナウイルス対策臨時交付金を活用

## ○横瀬小学校

令和5年3月竣工。校内の教室やフロアなどに、地元産の木材がふんだんに使用されている。生徒数：約500人

・事業期間：H30～R5まで

## ○NAZELAB（ナゼラボ）

JAちちぶ旧横瀬支店の遊休資産化する施設の有効活用として、2022年7月に同敷地内にオープン。

ナゼラボは、官民連携プラットフォーム「通称：よこらぼ」で採択され、一般社団法人タテノイト（埼玉県秩父郡横瀬町・代表理事：舘野繁彦）が、公益財団法人日本財団「子ども第三の居場所」事業の助成を受け、「学校でも塾でもない子どもの学びの場」として＜NAZELAB(なぜラボ)＞を開設した。

子供たちが好きなことを発見し、やり尽くす体験を通じて、自己肯定感、自己受容感を向上させ、他社との比較から解放された幸福の自分軸を確立するきっかけ作りを提供する。

・メリット

①横瀬小学校・中学校への周知や教育委員会及び学校側との連携が可能となる、②事業実施場所の確保、③学校に適応できず不登校となっている児童生徒が、各々最適な学習機会を得ることができる。





エリア898



エリア898



TATE Lab.



エリア899



エリア899



TATE Lab.





キッチンえんがわ



駅前食堂



駅前食堂



ナゼラボ



ナゼラボ



駅前食堂





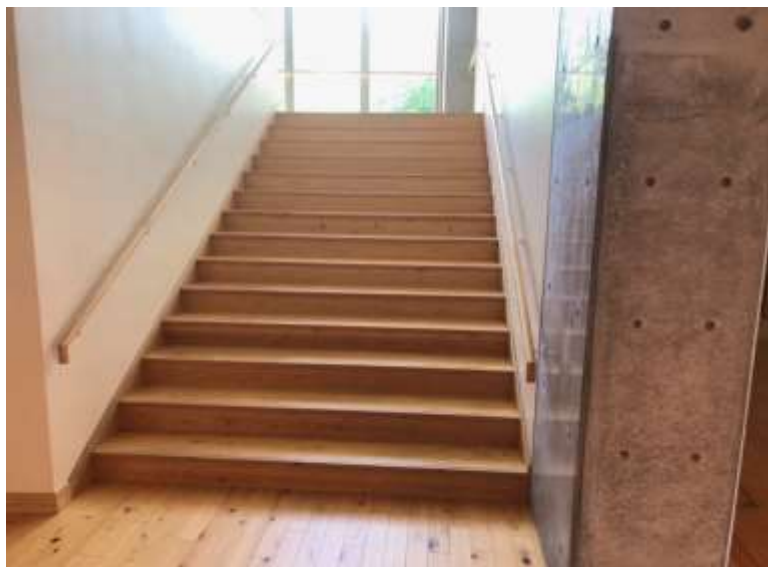
横瀬小学校



横瀬小学校



横瀬小学校





# 旅する公務員 3日目

**7月26日（水）**

**8時10分 役場登庁**

**AM：まち経営課でテレワーク（町業務）**

**PM：熊本県山江村から横瀬町への視察へ同行。**

**場所：エリア898**

**出席：プロジェクトマネジメント推進室 吉無田室長、福山地域づくりアドバイザー（山江村）**

**井上副町長、町田主任（横瀬町）、鈴木（磐梯町）**

**内容：まちづくり（よこらぼ）について**



**LAC横瀬**



**視察（山江村）**



**視察（山江村）**



**エリア898（研修会）**

同時刻、エリア898で、富田町長が「横瀬町の魅力を知ろう！」と題し講義されていた。  
この研修は、特定非営利法人 グローバルな学びのコミュニティ・留学フェローシップ主催で、次代の学校教育のあり方を模索されている先生を対象に行われた研修。海外の大学に進学する生徒たちは、日本人であることを強く晒されます。それは教員も一緒に日本の魅力を深く知り、発信できるようになることは、海外に出ていく上での必須項目と言える。



# 旅する公務員 4日目

7月27日（木）

8時10分 役場登庁

AM：まち経営課でテレワーク（町業務）

PM：13時～

よこらぼ審査会（官民連携プラットフォーム「よこらぼ」）  
オンライン説明会に同席した。

応募者：A社（仮名）

名 称：〇〇〇プログラム

状 況：継続審議案件

# 旅する公務員 5日目

7月28日（金）

8時10分 役場登庁

AM：まち経営課でテレワーク（町業務）

町長不在のため、井上副町長、まち経営課の皆さんにご挨拶。  
本当にお世話になりました。

12時～ 横瀬駅出発

西武鉄道⇒JR川越線⇒東北新幹線⇒JR磐越西線を乗り継ぎ、

17時10分 磐梯町到着





# 「A面的目的」①

## ○目的：

磐梯町役場の情報システムクラウド化により、テレワーク環境が整ったことから実際に旅をしながらテレワークをすることで生じる問題はあるか？

## ○検証：

機器のスペックに問題ない。チームス、Outlookなどリアルタイムで情報が共有できたので問題なかった。

但し、庁舎内にあるファイルなど確認したく、まだまだ自分がアナログであることに気づいた。また、財務会計が繋がらないので、予算や決算など確認できなかった。コミュニケーション感覚が少ないので不安だった。

## ○今後に向けて

過去の書類を電子化（PDFなど）できれば対応できる。旅先で財務会計を確認できるようにしたい。旅先で自分の分野以外の話題で共有できるよう、クラウドで町の情報を共有したい。

（※個人の感想です。）

# 「A面的目的」②

## ◆一定期間職場を離れリモートワークして感じた課題

- ・すべてをパソコン1台で仕事することは、まだまだ難しいと感じた。役場とコミュニケーションの肌感覚がなく、詳細な内容や意図まで正確に伝わっているか不安を感じる。  
→テキストばかりではなく、電話、ビデオ通話も活用しコミュニケーションを図る必要性があった。





# 「B面的目的」①

## ◆横瀬町のまちづくり

各分野において、刺激的で面白い取り組みがいろいろ展開されていた。

□なぜ、このような取り組みを行うのか？

横瀬町の最大の課題は・・・人口減少

□横瀬町の方向性

現在の人口約7,700人 40年後の人口予想したとき、

- ・戦略的取り組みを想定した場合・・・5,400人
- ・戦略的取り組みを想定しない場合・・・2,600人

□「予見できない未来」に備える。10年先は、もはや「予見できない未来」

□**ここから重要「町の未来を変えるために」**

①「今まで通りでは未来は変えられない」→「**新たなチャレンジ**」が必要

②既存資源だけでは未来は変えられない →「**新たな資源やレバレッジ** 既存資源の活用方法の発掘」が必要

③町の強みを活かす→（小さい／都市から近い／自然豊か／コミュニティ）

よって、人口増ではなく、「人口減少に  
耐え、備える」戦略  
的取り組みを実施し  
ていく！！



外部からヒト・モノ・カネ・情報を継続流入させ、化学反応・活性化を促す

# 「B面的目的」②

横瀬町のまちづくり（自分が個人的に感じたことです）

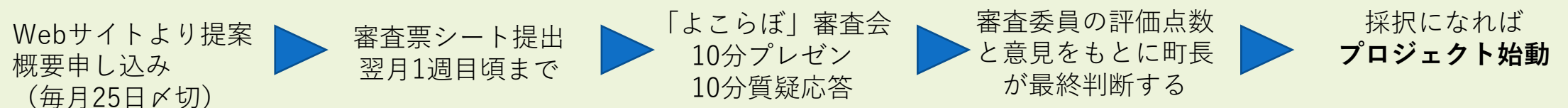
※中山間地域なので平地が少ない。よって、**企業誘致は難しいが、事業誘致ならできる。**

そこで、横瀬町とコラボする研究所「よこらぼ」

「よこらぼ」とは、・・・まちづくりの実践や実証試験などができる、チャレンジのフィールド



○事業採択までの流れ





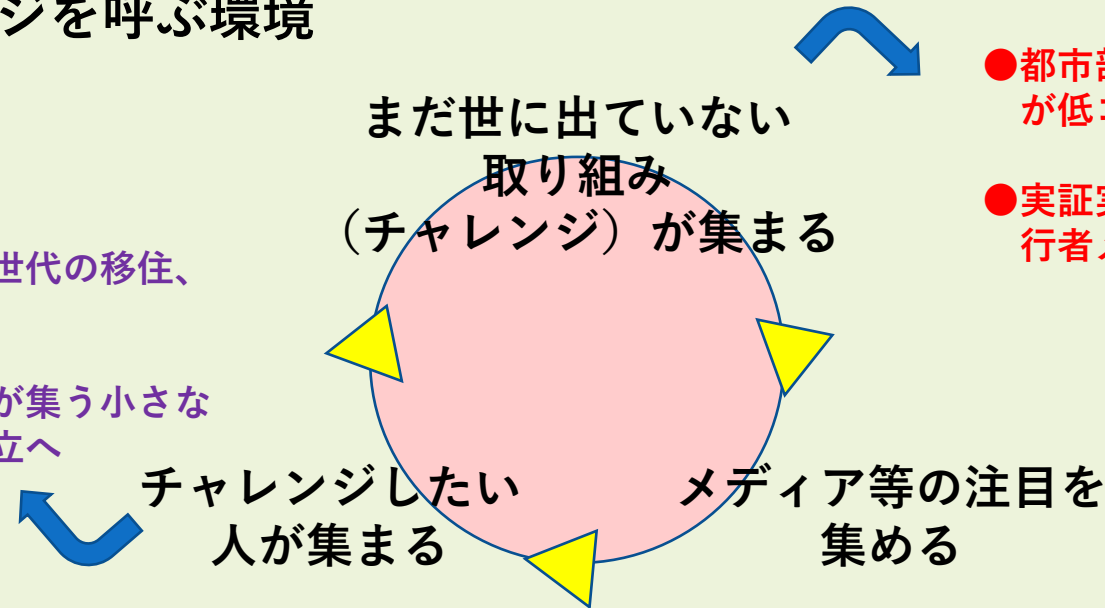
# 「B面的目的」 ③

## 「よこらぼ」から生まれたもの

### チャレンジがチャレンジを呼ぶ環境

- 関係人口拡大、、若い世代の移住、起業に波及

- 「チャレンジする人材が集う小さな町」というブランド確立へ



- 都市部からヒト、モノ、カネ、情報が低コストで継続的に流

- 実証実験実施により多様な分野で先行者メリットで教授

新聞掲載 274件

雑誌・Web  
メディア掲載 273件

TV 22件  
(NHK、フジ/テレ東ほか)

外部講演・  
視察受入 164件

7年目を迎え130件を超える採択実績

○提案222件／採択133件

#### ・採択実績

教育・子育て26.3%、シェアリングエコノミー9.2%、新技術活用・開発22.6%、その他41.4%)

#### ・予算措置したもの：採択133件／5件

- 小中学校のデータ活用授業（総務省）

- 小児科オンライン（埼玉県）

- 関係人口創出事業（その他）

- 窓口手続き簡素化

- 日本一歩きたくなるPJ（埼玉県）

# 「B面的目的」④

## ○横瀬町の見習いたいところ

### 地域おこし協力隊

- 1) ワイン（ぶどう）づくり ⇒（女）1名
  - 2) 空き家の利活用 ⇒（男）1名
  - 3) 竹とパンを活用した地域活性化 ⇒（女）1名
  - 4) 有害鳥獣被害対策 ⇒（男）1名
  - 5) 地域商社関係（株式会社ENgaWAによる受け入れ）⇒（男）3名、（女）4名
  - 6) 子育て支援 ⇒（女）1名
  - 7) 水耕栽培 ⇒（男）1名
  - 8) 林業（秩父広域森林組合による受け入れ）⇒（男）1名
  - 9) ウィルビーイング ⇒（女）1名
- （計15名）

募集を随時行っている。1つは課題解決に向かうもの。もう1つは、ミッションを与えず活躍できる場を提供し、個人のスキルにもよるが見守る。ネットで更新されるので書類は省略にした。地域商社関係（株式会社ENgaWA）は地域おこし協力隊に任せている。エンガワが隊員のコミュニティ場にもなっている。



# まとめ

横瀬町まち経営課は、まちづくりと財政を担当しておりとても忙しい課でしたが、大畑課長を先頭に課員の皆さん活気があり、明るい雰囲気の仕事してました。

また、小さい町だからこそできる地域住民を中心とした地域づくり。行政がスピード感を持ってサポートし、民間が主体となることで継続的な取り組みを行っている。など、さまざまな取り組みに、自分も質問が尽きませんでした。丁寧にご説明いただき共有できました。

本当に、すてきな町でした！

以上、

「旅する公務員」第9弾  
埼玉県 横瀬町

報告を終わります。

磐梯町役場 政策課

**主査 鈴木 裕明**

